すべき会員の未定、少くとも二百名を獲得列席せしめんとした鉾部の普及の為に同月二十三日迄延々になった。十二日の倶楽部連絡委員会は大会代議員に就いて次の如く協議した。

即ち代議員の選出は各支部を網羅して決定すること、依って其の動員に関しては、神明町五〇名、赤坂五〇名、南町五〇名、青山五〇名、芝浦工場は懇談会を開いて決定、柳島不明、猶未組織職場に対しては、宮井が極力勧誘すること。

斯くして十一月二十三日、芝青年団会館に結成大会を挙げた。当日の出席者二百七十一名、傍聴者約五十名、伊藤誠司会の後次を述べ

議長　池田多蔵（青山）
副議長　宮井昌吉（赤坂）　高野弘（工場）
書記　小林信吉（前職者）　加藤昇（前職者）
大前優（　）　佐野藤之助（赤坂）

資格審査委員長　金井又逸（神明町）
規約審査委員長　池田石太郎（赤坂）

以上各種委員選任の後、型の如く大会議事を進めた。後記宣誓を為し、綱領を決定、二十五項目に亘る議案審議を終えて、役員詮衡委員長手塚太郎外五名の委員は、左の如く本部役員を発表した。（理事別に依る機関）

組合理事長　宮井昌吉（赤坂）
常任理事　浜田藤次郎（青山車庫）
交渉部長　馬場五四三（南町）
教育部長　伊藤誠（柳島）
組織部長　池田多蔵（青山）
救援部長　金井又逸（南町）
会計　馬場五四三（南町）
池田石太郎（赤坂）

相談役　高山久蔵（総評合）

斯くして昭和七年十一月以来、日本主義交通労働組合準備会、或は日本交通倶楽部、日本交通従業員組合準備会等の名称を以て、企図されつゝあった、右翼組合運動も漸く実を結んだ。東交内紛の虚に乗じて幾何の同志をその傘下に集め得るか、日本主義謳歌の声は市電従業員大衆に如何に響き、如何に影響したか、大会に於ては二百数十名を動員したもの、東交の内紛一掃と、アプレ日教組の叫ぶ、日本交通従業員組合の発展過程に動かざる防波となるや